

株式会社 ハイマックス

会社説明資料

代表取締役社長 中島 太

証券コード：4299 東証1部

<https://www.himacs.jp/>

2022年2月3日

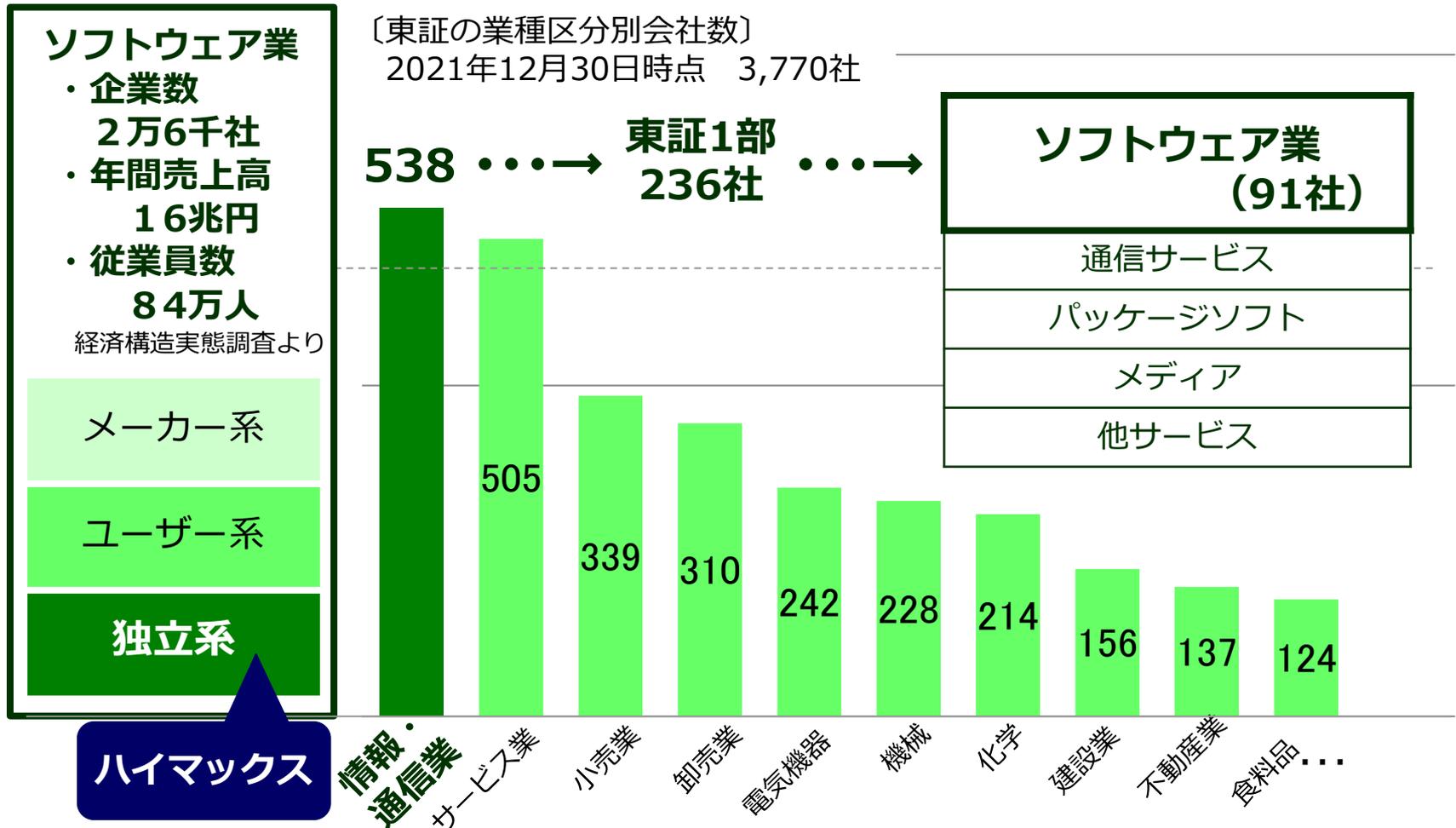


- 1 ハイマックスについて
- 2 当社の強み・特長
- 3 開発事例
- 4 業績動向
- 5 株主還元・株式
- 6 サステナビリティへの取り組み

■ 株式会社ハイマックス (HIMACS, Ltd.) 【東証1部 4299】

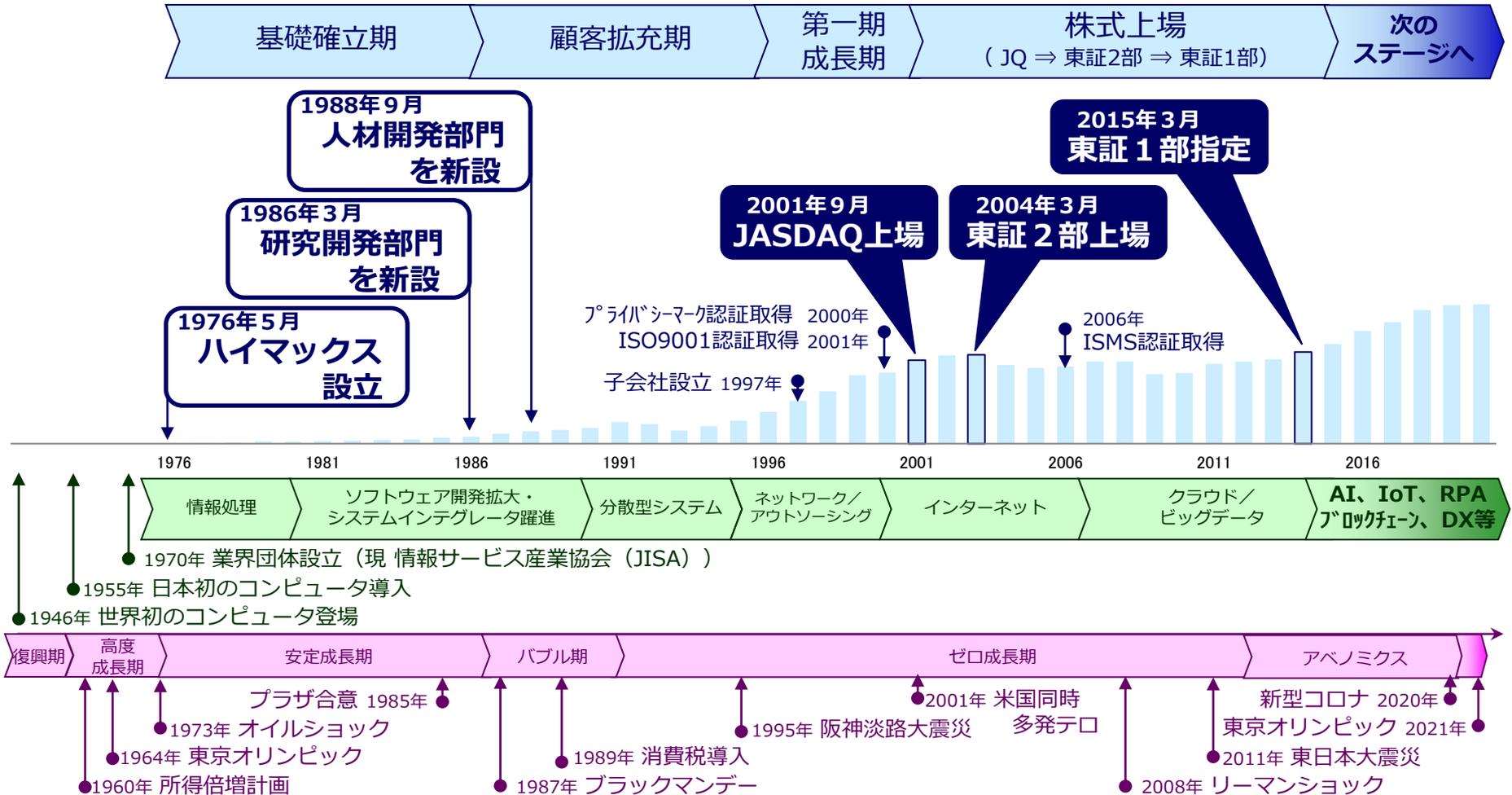
◆ 設立年月日	1976年（昭和51年）5月21日
◆ 本社	横浜市西区みなとみらい二丁目3番5号
◆ 事業内容	ソフトウェアの企画、設計・開発、メンテナンスのサービス提供
◆ 資本金	6億89百万円
◆ 代表者	代表取締役社長 中島 太（なかじまつよし）
◆ 売上高	（連結）154億31百万円 / （単体）147億97百万円（2021/3期実績）
◆ 営業利益	（連結）13億67百万円 / （単体）13億09百万円（2021/3期実績）
◆ 従業員数	（連結）905名 / （単体）817名（2021/12月末現在）
◆ 連結子会社	株式会社エスビーエス（100%子会社）
◆ 証券市場	東京証券取引所市場第一部（証券コード 4299）
◆ 業種区分	情報・通信業

■ ハイマックスは、独立系のソフト開発会社です



1 ハイマックスについて〔沿革・業界動向〕

■ ハイマックスは、技術力の向上と人材の育成に注力し、持続的な成長を実現しています

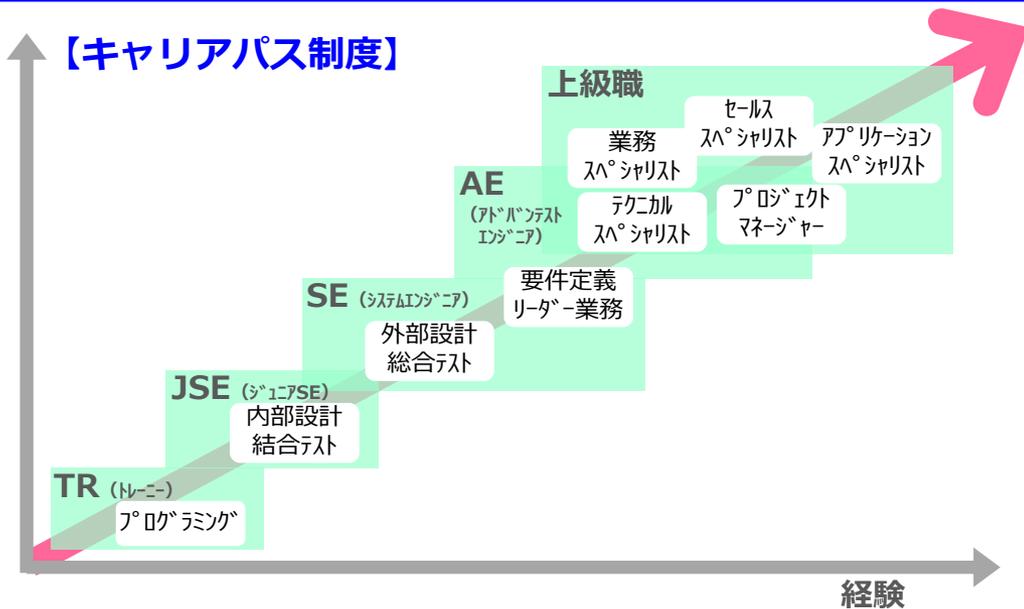


2 当社の強み・特長〔人材育成〕

■ 技術力の向上と人材の育成への投資を継続しています

【キャリアパス制度】

スキル



システム・エンジニア専門教育

階層別教育

基礎技術教育

新卒社員導入教育

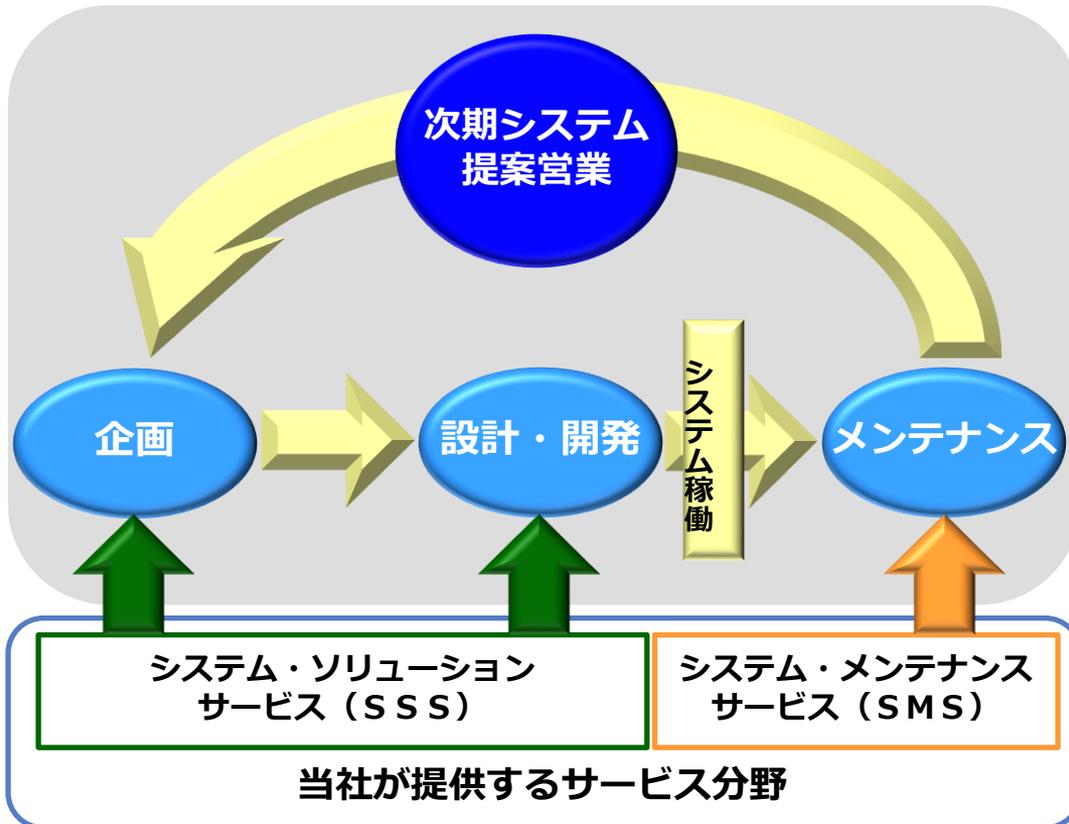
資格名称	資格取得者数 (単位：名) ※
	2021/9末
基本情報技術者	496
応用情報技術者	246
ITストラテジスト	3
システムアーキテクト	25
プロジェクトマネージャ	15
ネットワークスペシャリスト	13
データベーススペシャリスト	32
インバディットシステムスペシャリスト	2
情報処理安全確保支援士試験	27
ITサービスマネージャ	3
システム監査技術者	2
PMP (Project Management Professional)	27
その他 (ハンダ®-資格含む)	561
合計	1,452

※重複取得含む

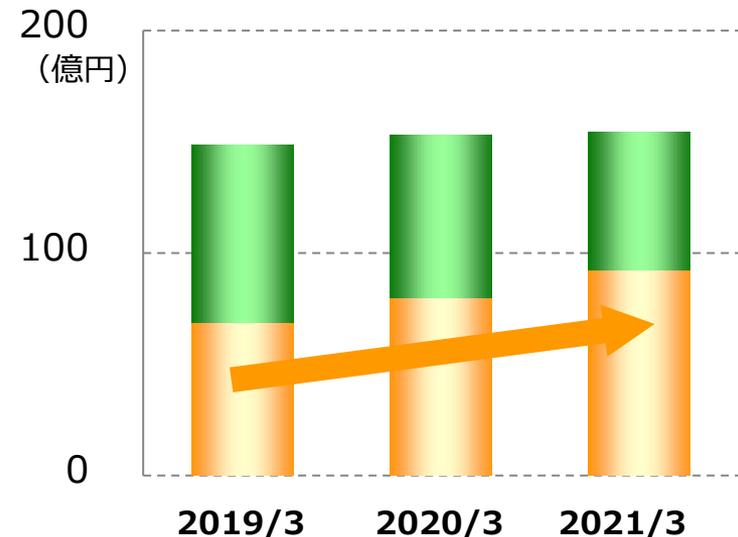
2 当社の強み・特長〔サービス分野〕

- 当社は、システムのライフサイクルの全領域にサービスを提供しています
- **SSS**（企画、設計・開発）で領域拡大し、システム稼働後の**SMS**（メンテナンス）で継続受注することにより、安定した売上高拡大に繋がっています

【システムのライフサイクルと当社サービスの相関図】



【サービス分野別売上高推移】



SSS	79.7	73.0	61.7
SMS	68.6	80.4	92.6
売上高合計	148.3	153.4	154.3

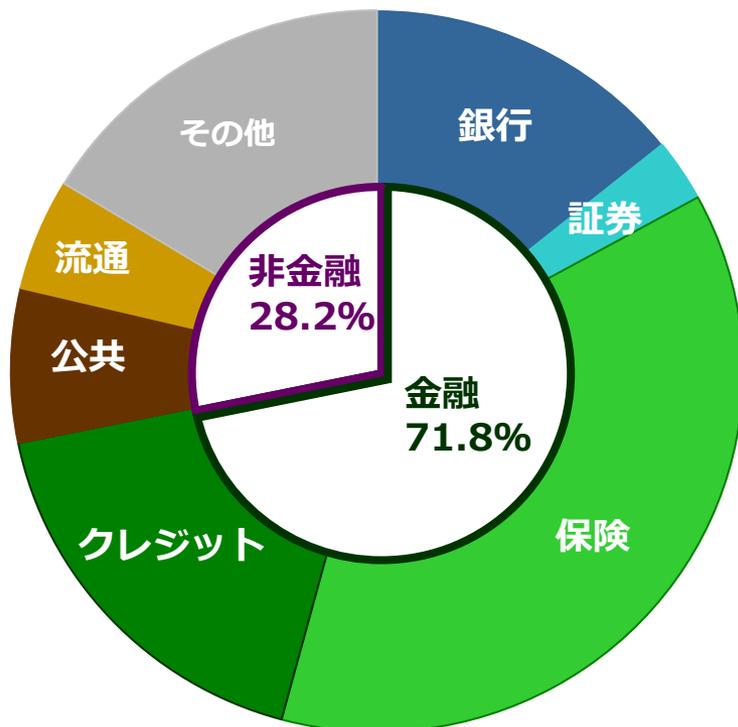
2 当社の強み・特長〔ユーザー業種〕

- **金融**（銀行、証券、保険、クレジット）業界向けの売上高が **約7割** を占めています

【業種別売上高比率】

2021年3月期
売上高 154.3 億円

(億円)



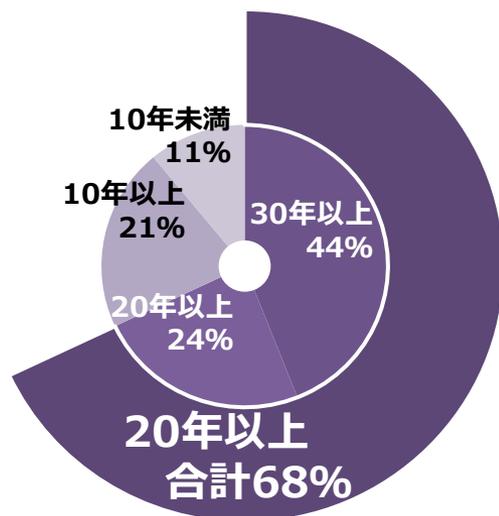
業種		売上高	比率
金融	銀行	21.9	14.2%
	証券	4.2	2.8%
	保険	57.4	37.2%
	クレジット	27.2	17.6%
非金融	公共	10.7	6.9%
	流通	7.7	5.0%
	その他	25.1	16.3%

2 当社の強み・特長〔主要顧客〕

- 主要なお客様は、業界のリーディング企業様です
- **20年以上継続取引**しているお客様が、
売上高の**約7割**を占めています

【取引期間別売上高比率】

2021年3月期
売上高 154.3 億円



大手システム・インテグレーター（S I e r）

伊藤忠テクノソリューションズ[®]、NTTデータグループ[®]、
日鉄ソリューションズ[®]、日本IBMグループ[®]、
野村総合研究所、日立グループ[®]、富士通グループ[®]等

エンドユーザー：システムの利用企業様から直接受注

アフラック、ANAシステムズ[®]、ジェーシービー、
住信SBIネット銀行、函研、総合警備保障、
SOMPOシステムズ[®]、東京海上日動火災保険、
日本カードネットワーク、日本総合研究所、
NEXCOシステムズ[®]等

（五十音順）

■ 皆様の生活の中で、当社が開発したシステムが活用されている事例を、ご紹介します

銀行



各種チャネル
接続システム



証券



営業チャネル
統合システム



保険



保険加入審査
システム



クレジット



カード不正利用
防止システム



公共



航空系
フライトプラン
システム



流通

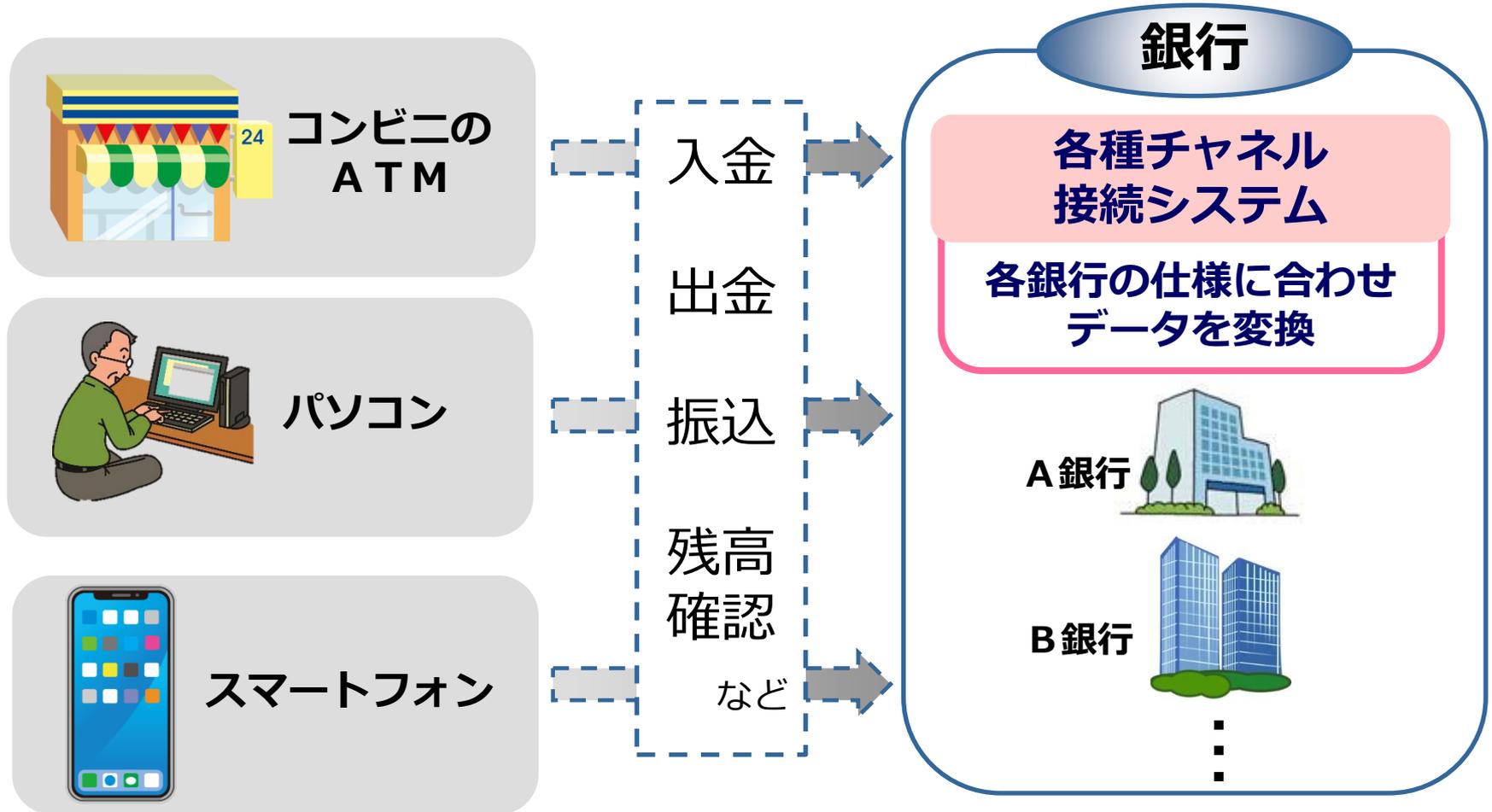


コンビニ
店舗
システム

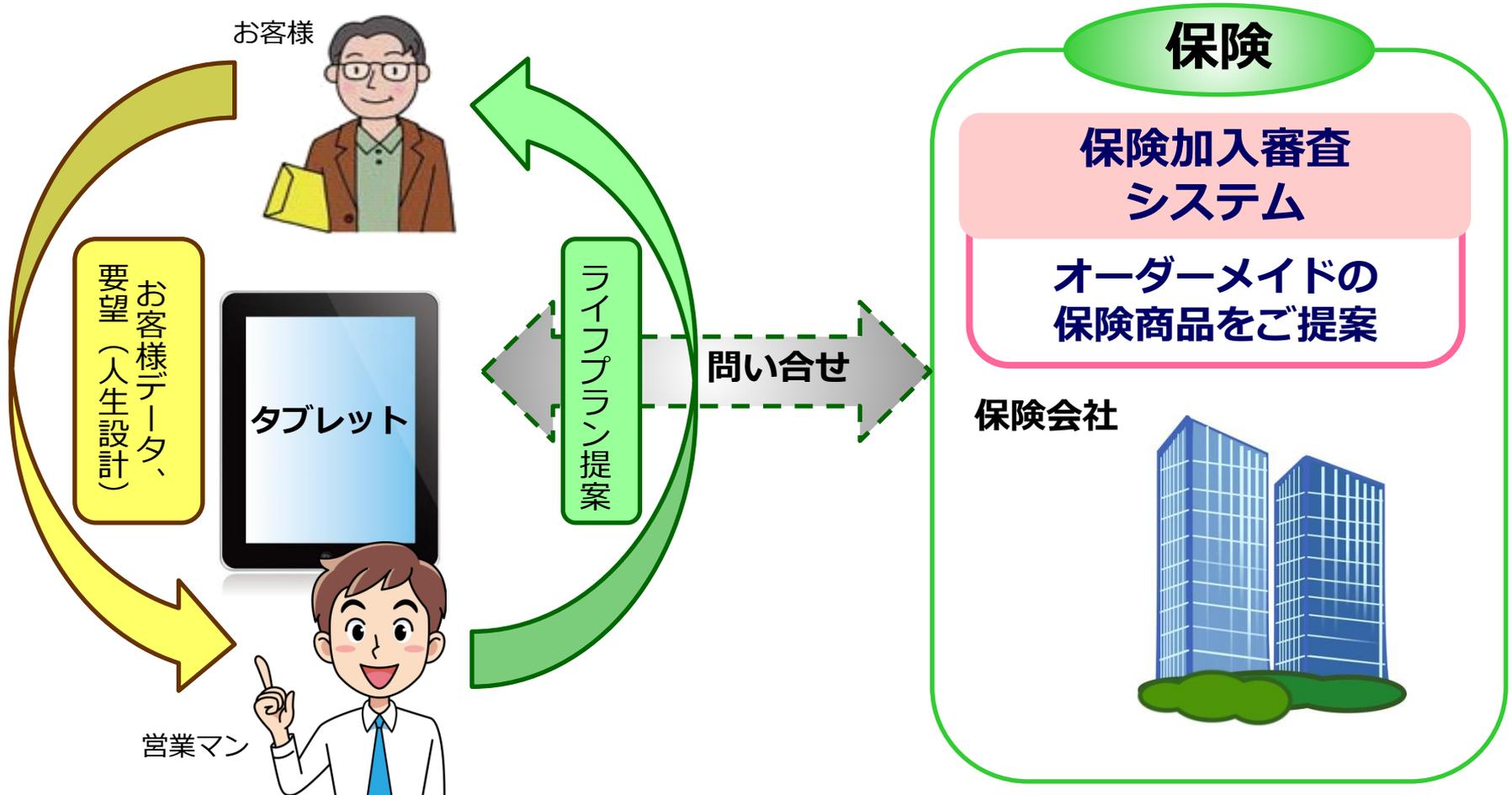


3 開発事例〔銀行業界向け〕

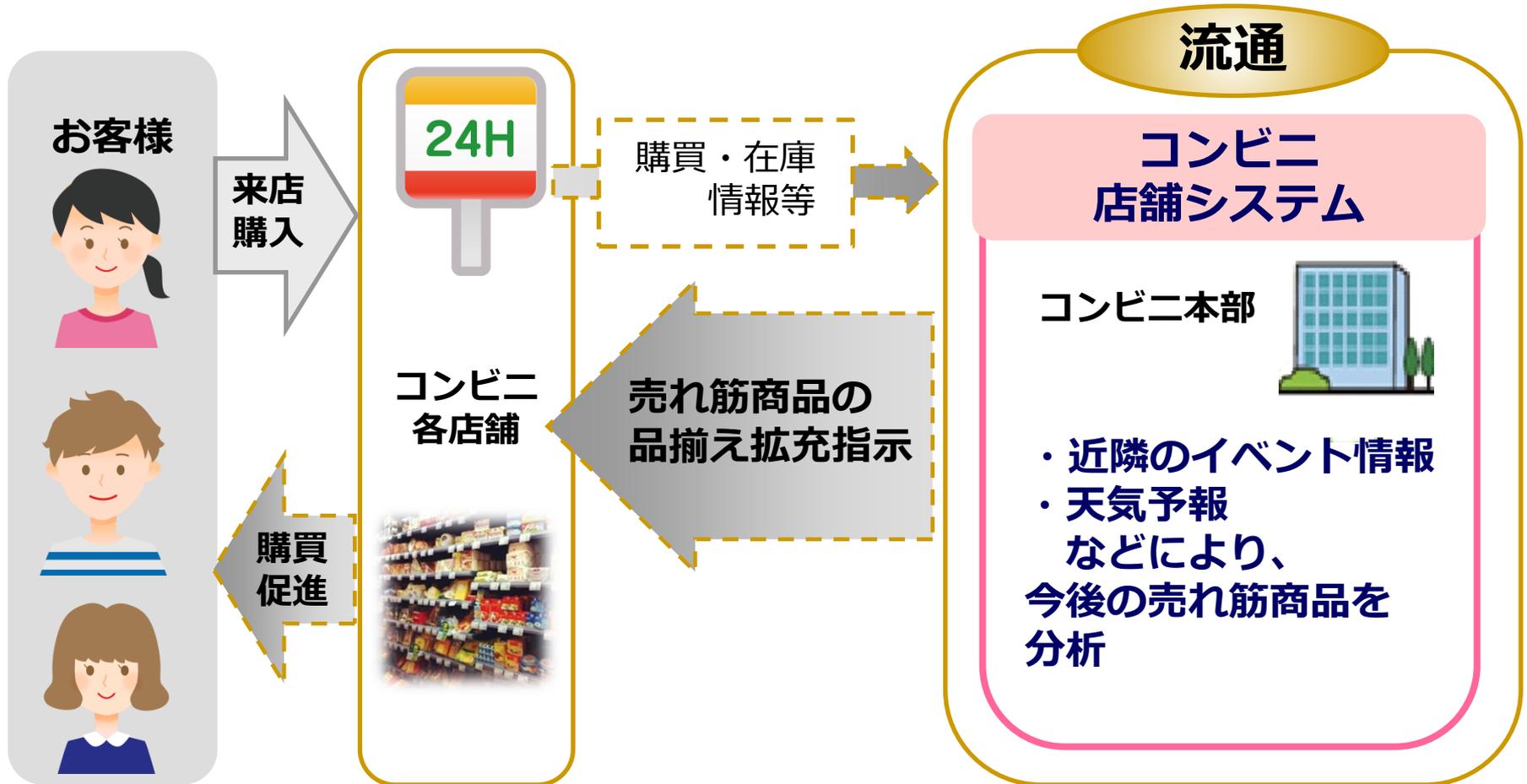
■ 金融サービスの利便性向上を支援するシステム



■ スピーディーに、お客様の人生設計に合った
保険商品が提案できるシステム



■ 暮らしに便利なコンビニ店運営を支援するシステム



- 当社が提供するサービスは、ユーザー企業様の経営戦略を実現すると共に、便利で快適な暮らしを望む消費者の、社会的インフラとなっています

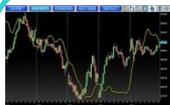
銀行



各種チャネル
接続システム



証券



営業チャネル
統合システム



保険



保険加入審査
システム



クレジット



カード不正利用
防止システム



公共



航空系
フライトプラン
システム



流通

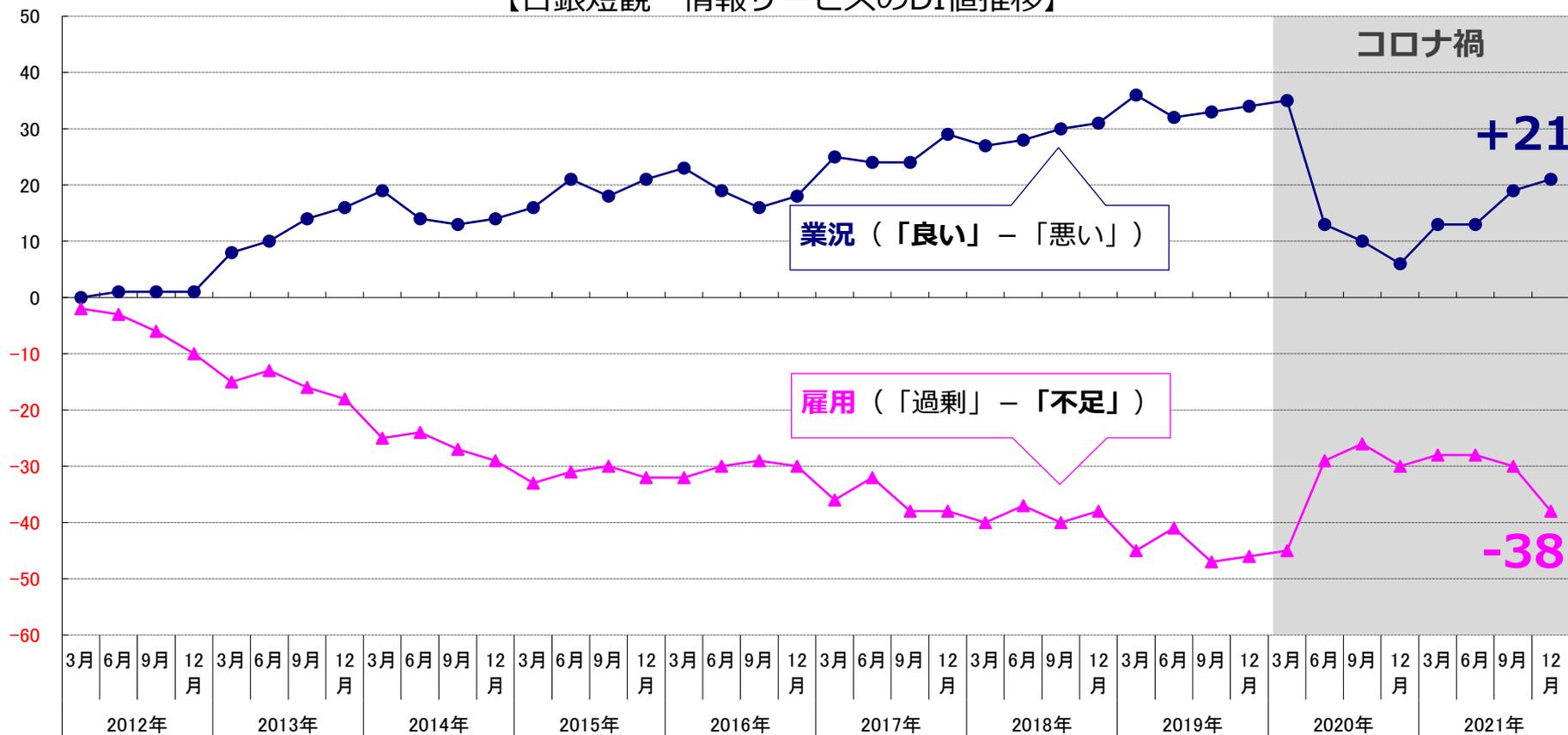


コンビニ
店舗
システム



- 業況（良い+21）：コロナの影響で急落するも、回復傾向
- 雇用（不足-38）：コロナ禍においても、技術者の不足の状態が継続

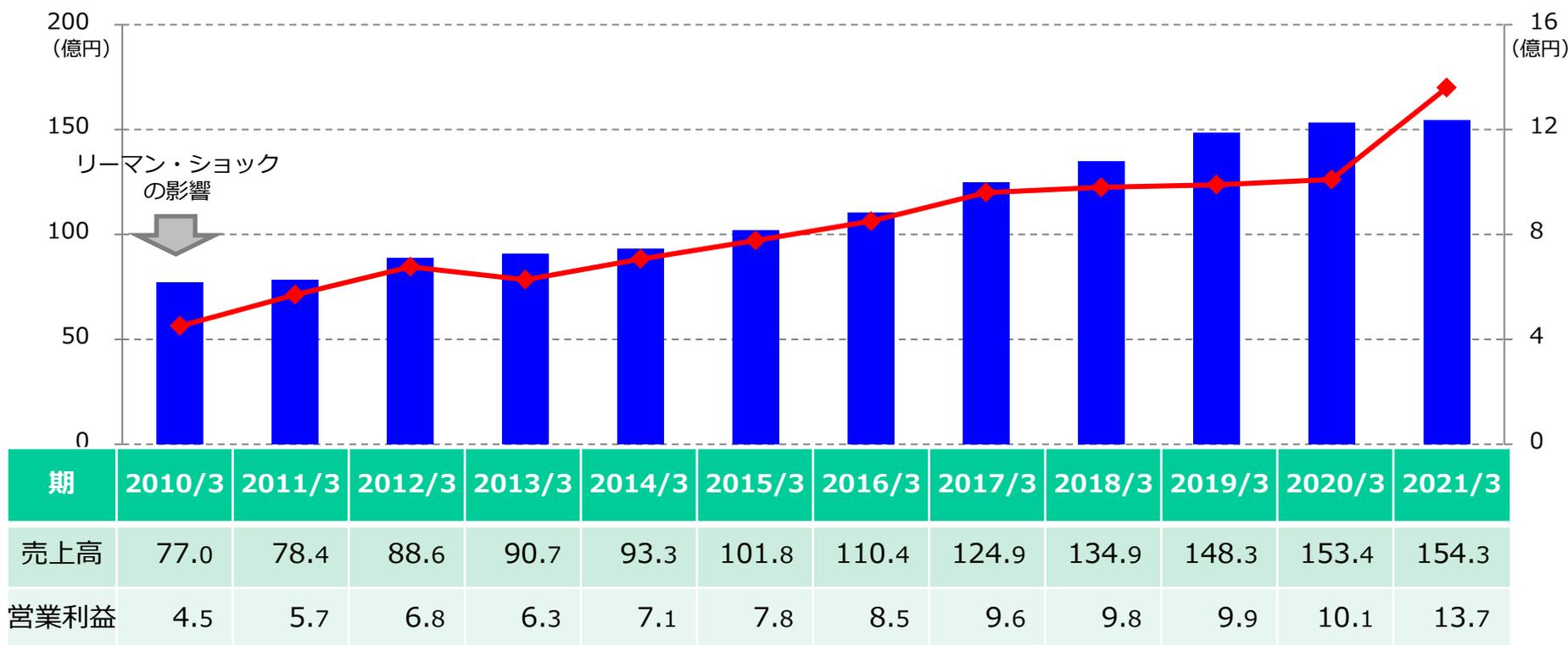
【日銀短観 情報サービスのDI値推移】



(出所) 日本銀行 全国企業短期経済観測調査より当社作成

■ リーマン・ショック以降
 (実績) 売上高 11期連続増収
 営業利益 8期連続増益

〔売上高・営業利益の推移〕 ■ 売上高 ◆ 営業利益



※2013/3期の減益要因

社員の定着率向上に伴い、退職給付債務が増加し、数理計算上の差異1億7百万円を一括償却したことによるものです。

- 売上高 : コロナ禍においても増収を維持 (過去最高更新)
- 利益 : 大幅増益 (過去最高更新)
プロジェクト管理強化による不採算案件の抑制
高収益案件の受注

(百万円)

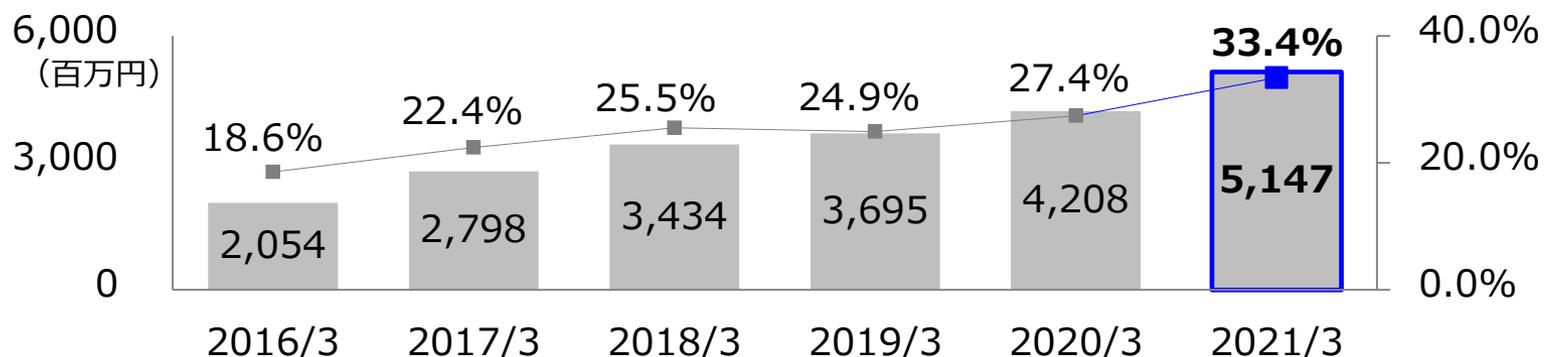
	2020年3月期 (実績)			2021年3月期 (実績)		
		(構成比)	(前期比)		(構成比)	(前期比)
売上高	15,342	100.0%	+3.4%	15,431	100.0%	+0.6%
売上原価	12,563	81.9%	+3.6%	12,450	80.7%	▲0.9%
売上総利益	2,780	18.1%	+2.5%	2,982	19.3%	+7.3%
販管費	1,768	11.5%	+2.5%	1,615	10.5%	▲8.7%
営業利益	1,012	6.6%	+2.6%	1,367	8.9%	+35.1%
経常利益	1,017	6.6%	+2.5%	1,369	8.9%	+34.6%
当期純利益	695	4.5%	▲3.2%	937	6.1%	+34.9%
1株当たり当期純利益	71円26銭	-	-	94円81銭	-	-

※2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

◆ エンドユーザー取引比率の向上

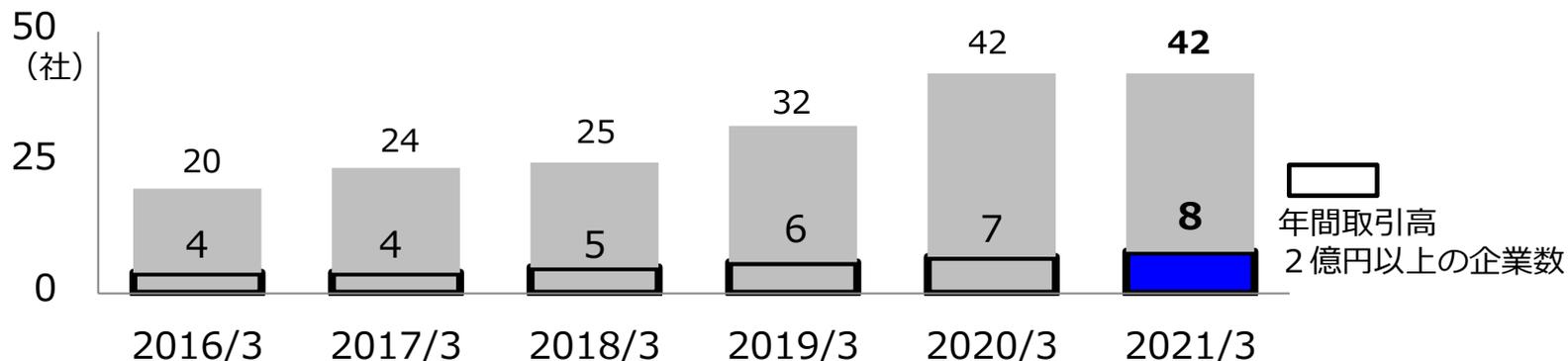
✓ 構成比： **33.4%** (2021年3月期)

✓ 売上高： **5,147百万円** (2021年3月期)



✓ エンドユーザー開拓 (年間取引高2億円以上)

4社 (2016年3月期) ⇒ 5社 (2018年3月期) ⇒ **8社 (2021年3月期)**



DX（デジタルトランスフォーメーション）とは

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、

蓄積したデータとデジタル技術を活用して、

顧客や社会のニーズを基に、

製品やサービス、ビジネスモデルを**変革**するとともに、

業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を**変革し**、

競争上の優位性を確立すること

■ 生命保険会社向けデータ分析及び機会学習モデル構築案件

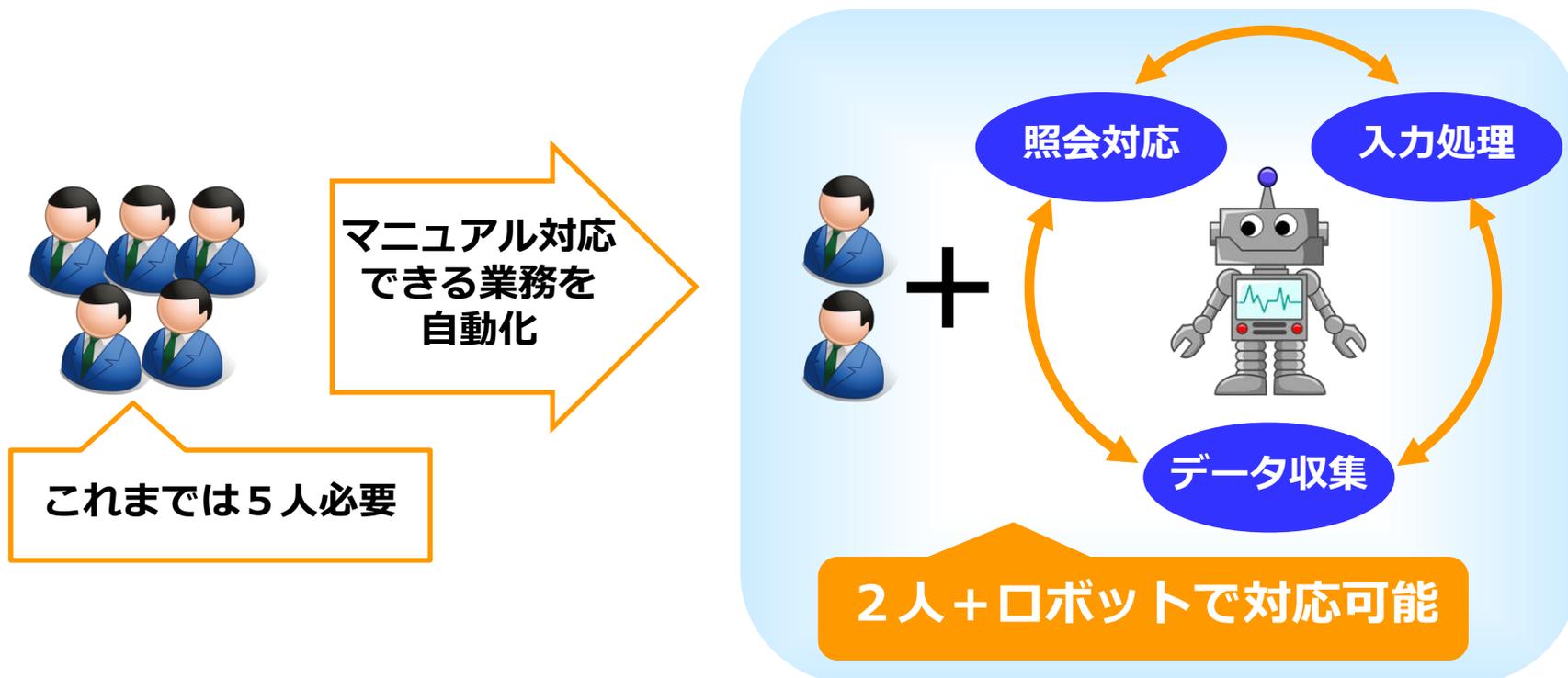
ビッグデータ + 機械学習モデル = AI

契約獲得に至る
法則性を導き出す代理店営業
データなど契約獲得に至る
プロセスを抽出営業上の
アドバイス代理店の
営業マン

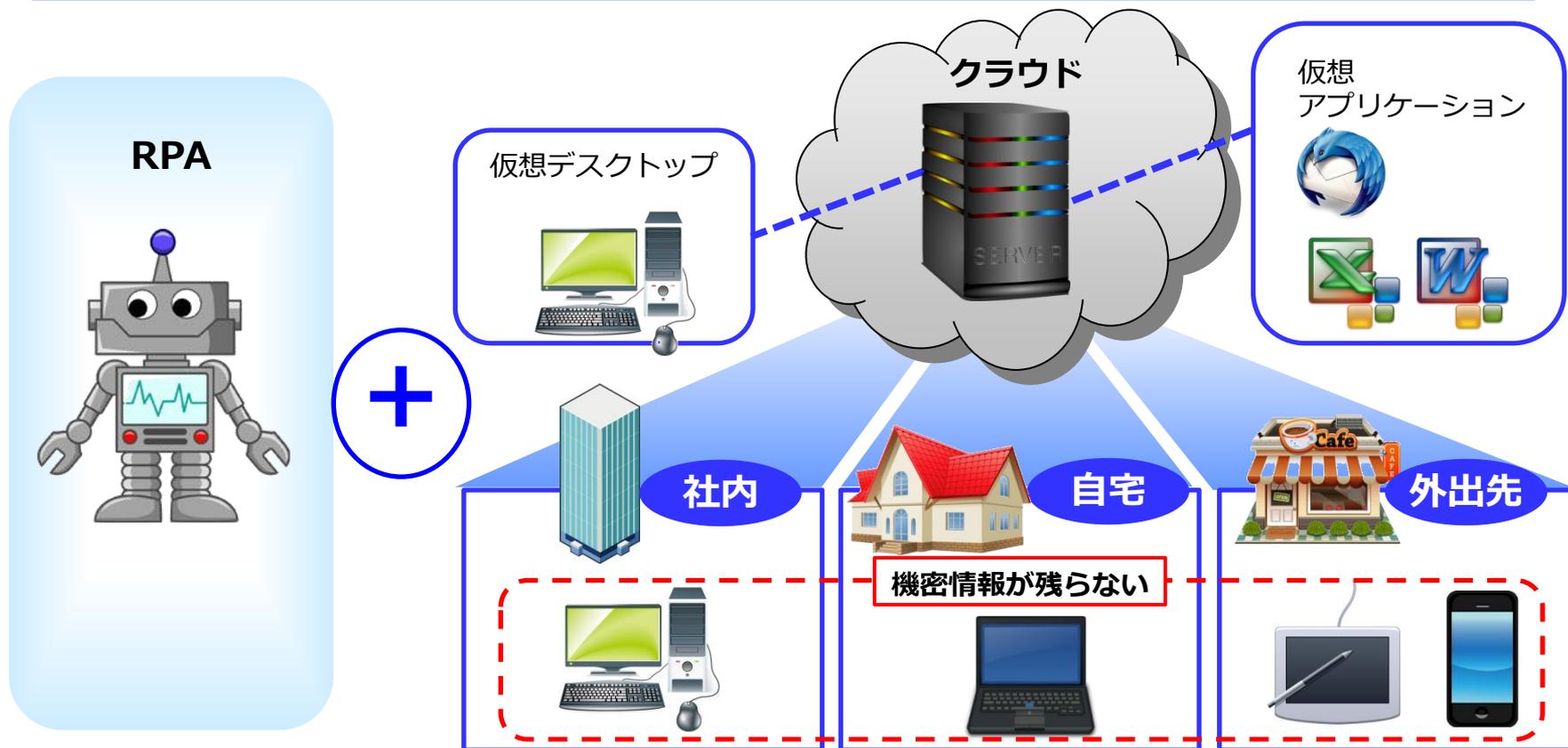
- ✓ 生命保険会社向けの**データ分析及び機械学習モデル構築**案件
- ✓ 損害保険向け**営業システム**案件
- ✓ クレジット業界向けの**アジャイル開発**案件
- ✓ 製造業向け『**Anaplan**』（意思決定支援ツール）導入支援
- ✓ 中小企業様向け **受注予測 P o C**※案件
 - ※ P o C : 新しい技術や理論、原理、手法、アイデア、などに対し、実現可能か、目的の効果や効能が得られるか、などを確認するために実験的に行う検証工程のこと
- ✓ 大手 S I e r の **I o T**プラットフォーム・**アジャイル開発**案件
- ✓ 大手 S I e r とのDX関連技術研究の協業
クラウド技術（AWS、Azure、GCP）、**コンテナ技術** 等々

- **RPA** (Robotic Process Automation) の導入を展開
「働き方改革」を支援します

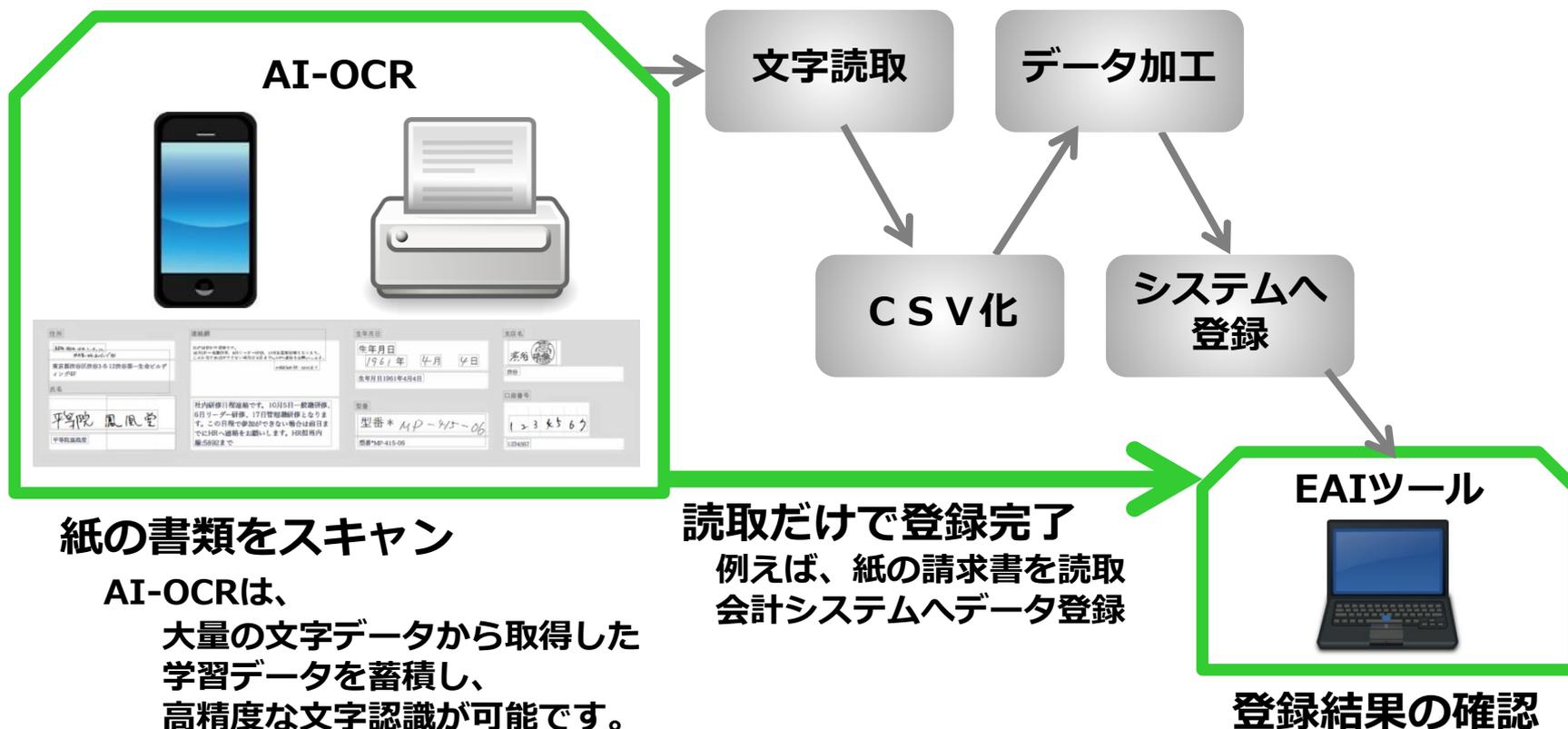
RPA：ロボットによる業務自動化の取り組み



- **0-working**シリーズ : Cloud Hands-on
クラウド環境で「業務効率化」と「テレワーク」を同時に実現



■ 0-workingシリーズ：For Entry 業務効率化ツール導入サポートを提供



◆ 重点教育

- ✓ DXプラットフォーム（AWS、Azure、GCP等）
- ✓ DX系技術者の育成：データ分析（データサイエンス系のコンペに参加）
アジャイル、ビジネスデザイン
- ✓ 技術の資格取得を推進
 - ・ AWS関連資格取得数：76資格（2021/9末現在、重複取得含む）
 - ・ 認定スクラムマスター（CSM）及びCKADの取得推奨
- ✓ PL（プロジェクト・リーダー）育成：一部新規コンテンツを追加
（品質管理、スコープ管理、コスト管理、進捗管理）
- ✓ 開発力育成（開発プロセス、問題解決力）

◆ プロジェクト運営の標準化

- ✓ 自社開発プロセス標準をリニューアルし、全社運用を開始
（定量的な計画・報告、マネージメントプロセスの軽量化等）

◆ R & D投資

- ✓ 先端技術の研究等へ継続投資
 - ・ AI 技術研究 : 分類/回帰/時系列予測
特徴量エンジニアリング、MLOps
 - ・ クラウド技術研究 : AWS (Amazon) /Azure (Microsoft) /
GCP (google)
 - ・ 開発手法研究 : アジャイル、UI /UX
 - ・ 生産性向上ツール調査 : 開発系/管理系 等々
テレワーク環境向け手法・ツール
- ✓ 社内技術情報交流会『HM-Tech Day』をリモート開催
 - ・ 生産性向上ツール、データ分析、クラウド環境構築のデモ実施
 - ・ 先端技術を社内展開し、多様な顧客ニーズへの対応を図る

◆ M&Aの推進

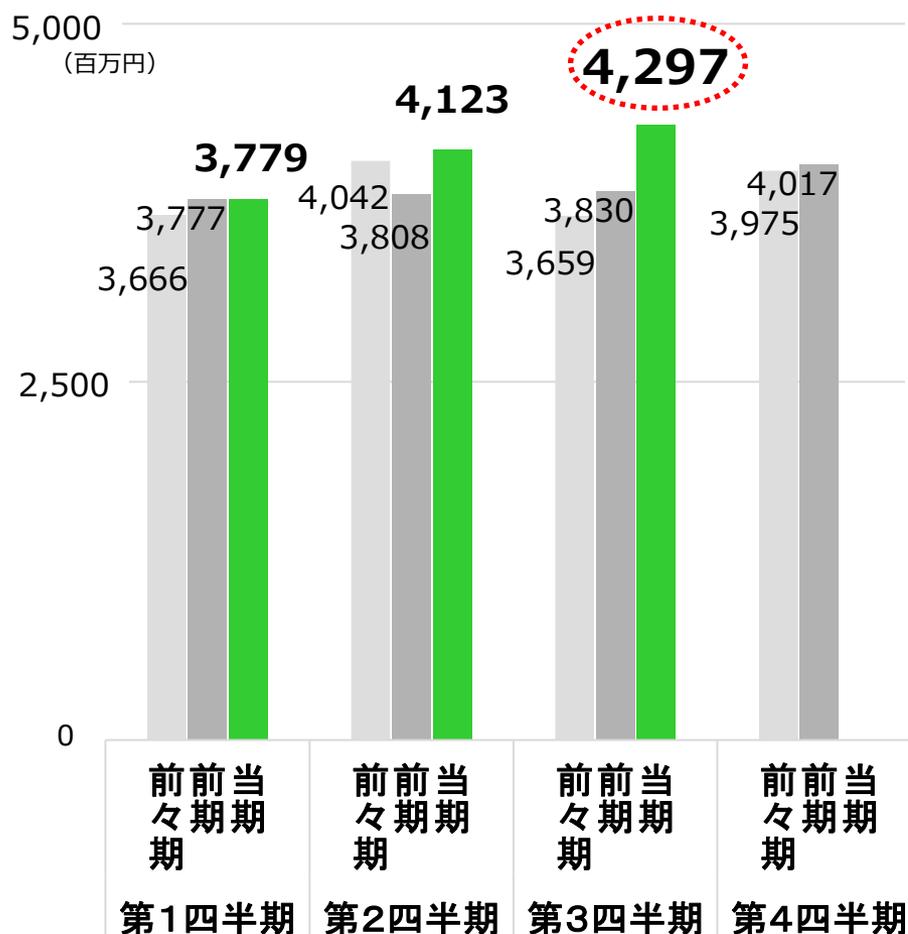
- 売上高：6.9%増収（第3四半期累計の過去最高業績）
- 営業利益：29.0%増益
プロジェクト管理向上に伴い採算性が向上

(百万円)

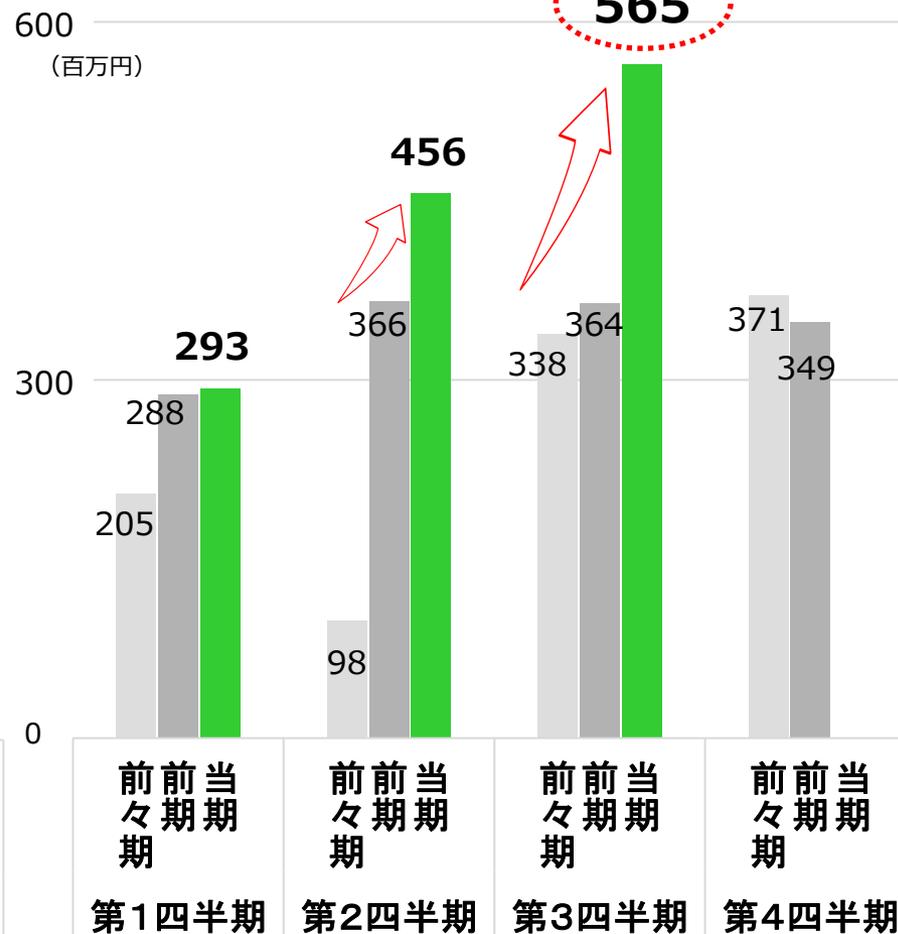
	2021/3 第3四半期累計		2022/3 第3四半期累計		比較増減	
		(構成比)		(構成比)	(額)	(率)
売上高	11,415	100.0%	12,199	100.0%	+784	+6.9%
売上原価	9,171	80.3%	9,702	79.5%	+531	+5.8%
売上総利益	2,244	19.7%	2,497	20.5%	+253	+11.3%
販管費	1,225	10.7%	1,183	9.7%	▲43	▲3.5%
営業利益	1,019	8.9%	1,314	10.8%	+296	+29.0%
経常利益	1,022	9.0%	1,316	10.8%	+293	+28.7%
四半期純利益	688	6.0%	889	7.3%	+201	+29.2%

■当期：2022年3月期
 ■前期：2021年3月期
 ■前々期：2020年3月期

売上高

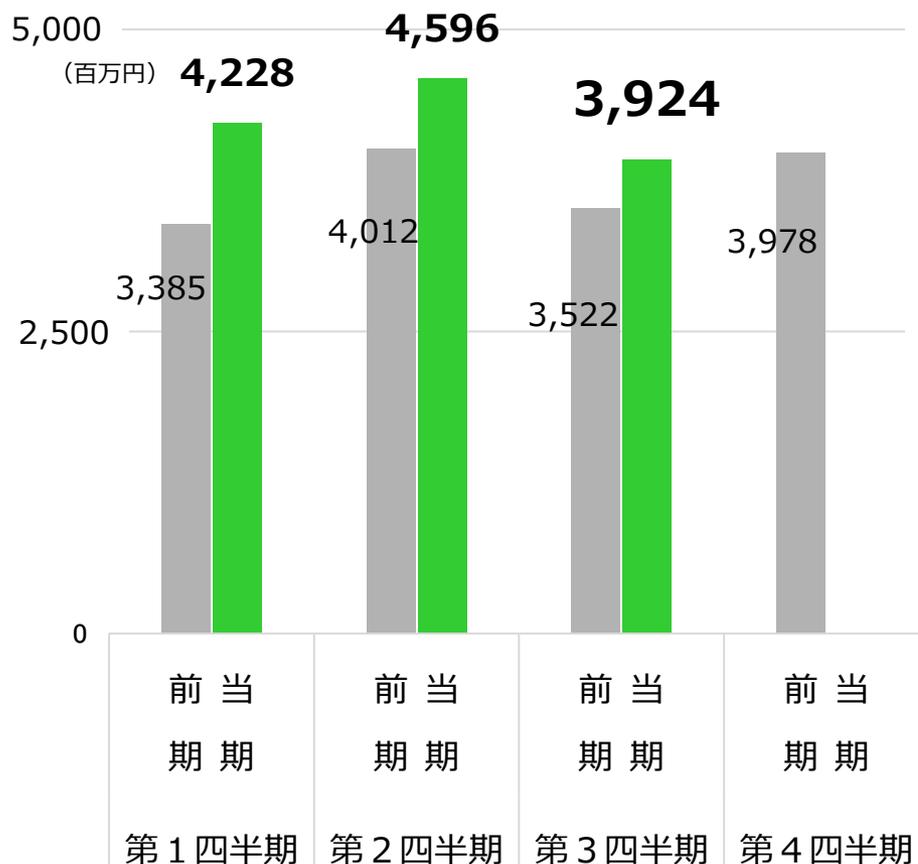


営業利益

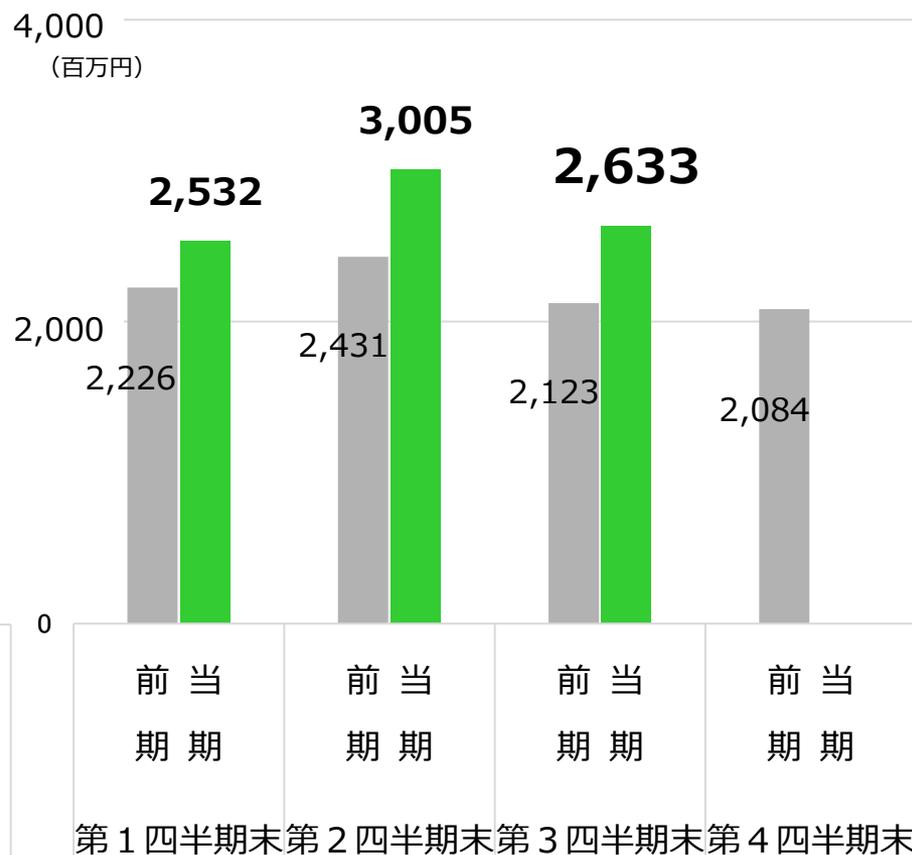


■ 当期：2022年3月期
■ 前期：2021年3月期

受注高



受注残高



※前年度まで、個別契約の締結、注文書もしくはこれらに準じる文書を受領したときをもって計上。
今年度より、個別契約の締結時に計上することに変更。前年度も、変更後の計上基準に基づいた数値を記載。

■ 2022年3月期 通期利益予想を増額修正（過去最高益予想）

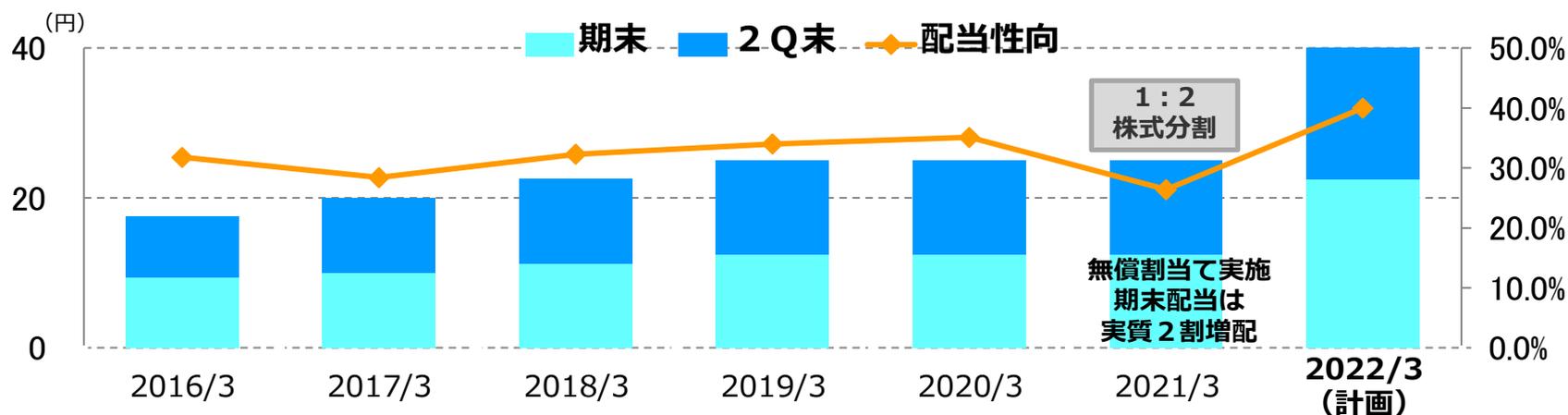
- ✓ プロジェクト管理向上による採算性向上が
通期に亘り寄与

(百万円)

	2021/3期 実績	2022/3期予想			前期比
		(前回予想)	増加額	(修正後)	
売上高	15,431	16,500	—	16,500	+6.9%
営業利益 (利益率)	1,367 (8.9%)	1,500 (9.1%)	+200	1,700 (10.3%)	+24.4%
経常利益 (利益率)	1,369 (8.9%)	1,500 (9.1%)	+200	1,700 (10.3%)	+24.1%
当期純利益 (利益率)	937 (6.1%)	1,010 (6.1%)	+140	1,150 (7.0%)	+22.8%
E P S	94円81銭	87円11銭	—	99円18銭	—

5 株主還元・株式〔配当推移〕

- 安定的かつ適正な利益還元を継続実施
- 目安とする連結配当性向の水準を 30% から **40%** へ引き上げ
- 2022年3月期末配当は、**10円増配**し、**22円50銭**とする計画



2 Q末	8.0	10.0	11.25	12.5	12.5	12.5	(実績) 17.5
期 末	9.5	10.0	11.25	12.5	12.5	12.5	(計画) 22.5
年間 合計	17.5	20.0	22.5	25.0	25.0	25.0	(計画) 40.0
配当 性向	31.8%	28.4%	33.2%	34.0%	35.1%	26.4%	(予想) 40.3%

※当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
配当金は、株式分割の影響を遡及して調整しております。

- 当社株式への投資魅力を高め、より多くの皆様に当社株式を保有していただくことを目的とする

■ 対象となる株主様

毎年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された当社株式100株（1単位）以上を保有する株主様



■ 株主優待の内容

保有株式数に応じて**社会貢献型QUOカード**※を贈呈

※公益社団法人国土緑化推進機構「緑の募金」への寄付が付されております。

保有株式数		優待内容	
100株以上	200株未満	QUOカード	1,000円
200株以上	600株未満	QUOカード	2,000円
600株以上	1,000株未満	QUOカード	3,000円
1,000株以上		QUOカード	4,000円

1. 新市場区分の選択方針

プライム市場を選択します

2. 上場維持基準への適合状況

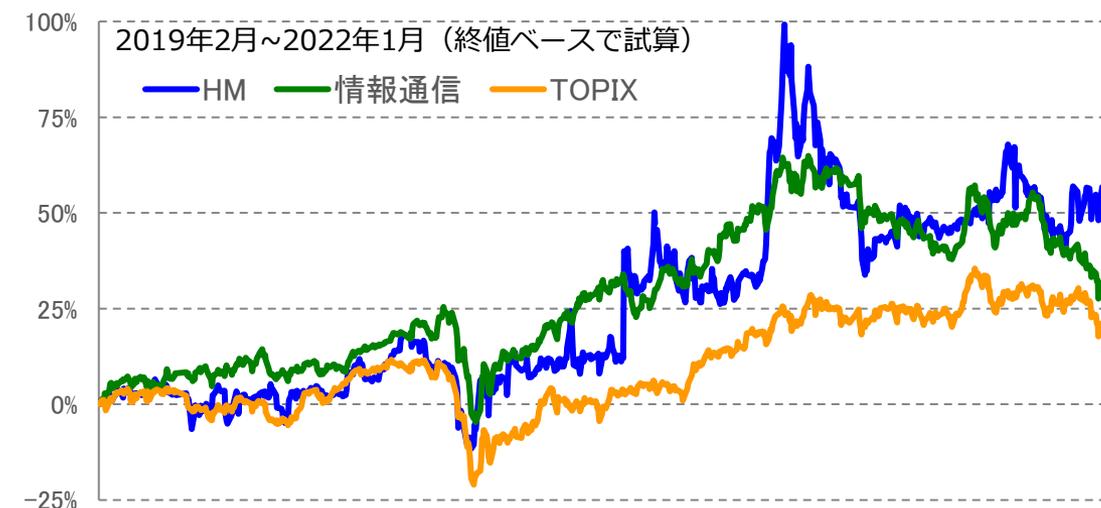
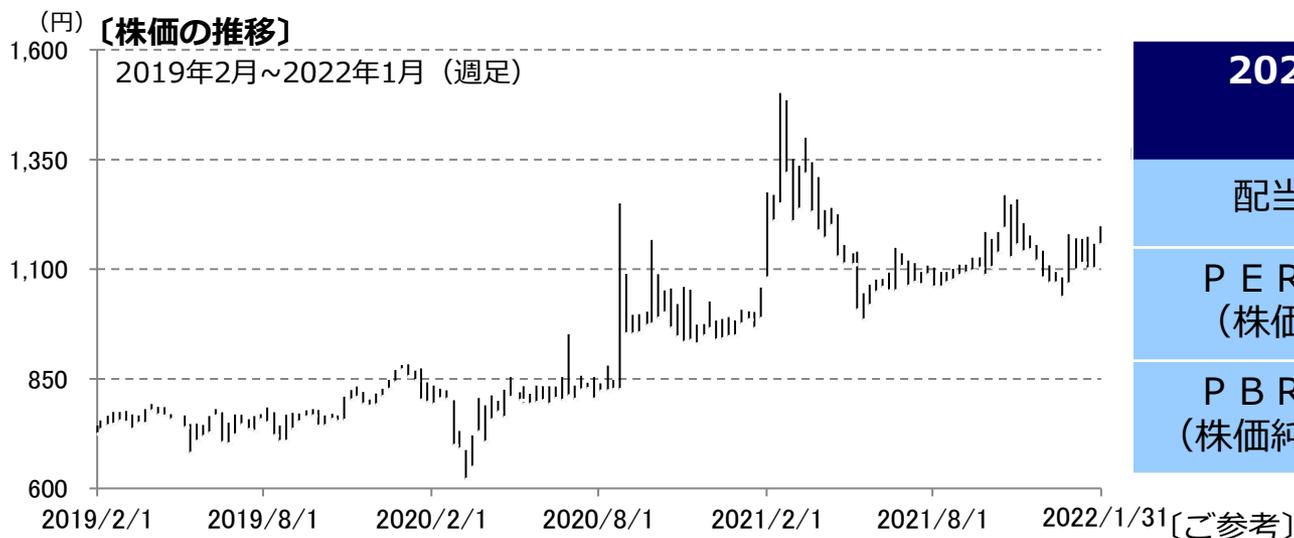
プライム市場の上場維持基準		当社の数値	適合状況
流通株式数	20,000単位以上	83,599単位	適合
流通株式時価総額	100億円以上	92.8億円	不適合
流通株式比率	35%以上	67%	適合
売買代金	1日平均売買代金 0.2億円以上	0.3億円	適合

※上記の数値は、保有目的が純投資である株式を含めた二次判定結果に基づき記載。
 流通株式時価総額の算定に用いた株式の最終価格の平均値は1,111.1円。

3. 上場維持基準の充足に向けた主な取り組み

- **現中長期経営計画の完遂**に基づく、事業規模の拡大
- **体質強化**への継続投資及び**M&A**の実現による、企業価値の向上
- **IR活動の強化**による、当社事業への理解と認知度の向上
- **株主還元策の更なる充実**により、当社株式への投資魅力を高める
- **流通株式数の増加**に向けた検討・実施

5 株主還元・株式〔株価推移〕



※当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を、また、2021年3月1日付で普通株式1株につき0.2株の割合で自己株式の無償割当てを行っております。当社株価の推移は、これらの影響を考慮しております。

2022/2/3 終値	1,161 円
配当利回り	3.45 %
P E R (予想) (株価収益率)	11.7 倍
P B R (実績) (株価純資産倍率)	1.47 倍

E P S (予想) (1株当たり純利益)	99円18銭
B P S (実績) (1株当たり純資産)	791円86銭
1株当たり配当金 (年間計画)	40円
時価総額	144億円
売買単位	100株

【環境 (Environment)】


- 環境に配慮し、紙や電力などの省資源化に寄与するソリューションを提供する。
- 環境負荷軽減に向けて取り組む。
- 環境保全に関する活動などを積極的に支援する。

【社会 (Social)】


- 人権を尊重するとともに、公正かつ透明な企業行動に徹する。
- 産学連携（寄付講座）など、情報分野における人材育成などを通じて、地域社会への貢献活動に取り組む。
- 社員の健康増進と安心して働き続けることができる制度・環境の整備に取り組む。
- お客様の働き方改革や業務効率化を支援するためのソリューションを提供する。
- 絶えず品質の向上に努め、顧客満足度を向上させる。
- DX技術者を育成し、お客様が新たな付加価値を生み出すためのソリューションを提供する。

【ガバナンス (Governance)】


- 中長期的な企業価値の向上に向けて、更なるコーポレートガバナンスの充実に取り組む。
- ステークホルダーに対する説明責任が十分に果たせる体制を構築する。
- 法令並びに諸規則を遵守して、良識のある社会人、企業人として最善を尽くす。

5 サステナビリティへの取り組み

■ 創業の地 横浜への社会貢献活動を行っております。

☆ 『横浜市水のふるさと道志の森基金』を支援
道志村の私有林の間伐作業にボランティア参加



☆ 『環境絵日記』に協賛



横浜市内の小学生が描いた環境をテーマにした絵日記の優秀作品に対し、『ハイマックス賞』を授与

☆ 『横浜サンタプロジェクト』に協賛
横浜みなとみらい21周辺の清掃活動に参加



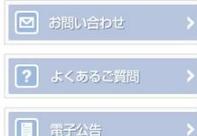
当社ホームページのご紹介

当社のホームページでは、企業情報や財務情報を積極的に情報開示しております
当社をよりご理解頂くためにも、ぜひアクセスして下さい

www.himacs.jp



最新の決算情報をはじめ、IR資料を掲載しております



Your best partner.

お客様から信頼され、選ばれる存在であり続ける



**株主・投資家の皆様から信頼され、
選ばれる存在であり続ける**

ご清聴 有難うございました。

【お問合せ先】

メール：ir@himacs.co.jp

T E L：045-201-6655（代）

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。